

2008あいち平和行進ニュース あるく

2008.6.7 8 TEL052-932-3219 FAX052-931-2651 愛知県原水協内
あいち平和行進のHP <http://jmpd.jp/~peace/peacewalk/home.html>

小牧コース・航空自衛隊経由

桃花台コース・航空自衛隊経由

豊山コース・航空自衛隊経由

高蔵寺コース・航空自衛隊春日井分屯地経由

西山コース・陸上自衛隊春日井駐屯地経由

合流コース・JR勝川駅 春日井市役所コース 計22.5km

400人以上(計2,900人)が参加!沿道募金 41,210円(計233,188円)

「すみやかな核兵器の廃絶のために」の署名 238筆(計1,717筆)

行進ペナント4本

初めて取り組んだ豊山コースに45人が参加!全体でも400名を超える参加!核兵器をなくそう・イラクから自衛隊は撤退せよ・原爆症認定訴訟に勝利しよう - 県下すみずみにその声をさらに広げよう!!

愛知の平和行進の中でよく語られている3つの点は、仙台・大阪の原爆症認定訴訟における勝訴判決、クラスター爆弾国際禁止条約の締結、名古屋高裁でのイラク派兵違憲判決などです。いずれも様々な努力の中で生まれた大きな変化ではないでしょうか。今回50周年ということもあり、空中給油機の配備のこともある中で取り組んだ豊山コースの参加は45人と大きく成功。アピールの内容も話題になりました。のべ参加は400名となり、5つのコースを取り組んで大きな成果が各コース生まれました。

小牧コース(150名)&小牧基地前での要請



小牧では100名が参加し元気の出る出発式が行われました。地区労連藤山事務局長は、厳しい労働実態の中、小林多喜二の「蟹工船」が注目されたこと組合の組織化などふれ「潮目が変わってきた」と話し「一方で改憲同盟の動きも活発だ。せめぎ合いの中、行進を是非成功させていきたい」と話されました。

小牧基地前の集会では、すずかけ作業所の仲間10名が平和の願いを朗読しました。行進に向けて事前学習し、仲間のみなさん自身から出された意見を集めつくった「へいわのねがい」を読み上げ「戦争の道具をなくすために憲法9条を世界に広げていきたい」と朗読しました。

航空自衛隊小牧基地へ「自衛隊のイラクからの撤退」などを求める要請書で申し入れました。今回も基地正門前に2重のフェンスをつくり、まともに受け取りをしない態度に参加者怒り心頭「自衛隊は誠実に対応するべきだ」の声が上がりました。

西山コース（60名）

出発集会で、県内通し行進者の田中さんは、西山駐屯地が小学校の隣にあることに改めて驚きながら、災害対策という名目で銃を装備した自衛隊が徒歩訓練を行う異常さはまさに9条を蹂躪するものと発言。党市議団長の宮地さんは、この地は終戦間近に原爆サイズの模擬爆弾が落とされたところ。また、この地と鳥居松と高蔵寺は兵器工場のために作られた町であり、根っからの軍事産業と基地の町。また配備された空中給油機は220億円もかかり、配備後1週間で飛べなくなる代物と酷評。また、地域にすむ方から沢山の折り鶴が全国通し行進者にプレゼントされました。また、八田店では、行軍訓練の問題でミニ学習会を行いました。

高蔵寺コース（73名）

沿道の反応が目に見えてあり。2組の乳母車での参加もあり。0歳から92歳の方までの幅広い参加が実現。弾薬庫前での要請で、新婦人の渡辺さんは、あなたの命も、私の命も、憲法9条が守っていますと切々と訴えました。恒例の弾薬庫前での学習も行いました。

桃花台コース（20名）

中日新聞のマイタウンニュースをみて初めて参加した方も…。

豊山コース（45名）



平和行進50年の年に今年から豊山コースができ、45人が参加。出発式挨拶でめいきん江口さんは「核兵器をなくすために力を合わせて頑張ろう」と話されました。県内通し行進の遠藤さんは「被爆者から私に変わって歩いてくれてありがとうと言われた。被爆者のためならどこまででも歩いていきたい。初めての行進で最初の一步は小さいけれど大きな行進をつくるための土台になると思います」と話されました。県共同連絡会の嶺村さんは「被爆者のたたかいは仙台と大阪の裁判で国に上告をやめさせてきた。しかし原告305人の内、50人がこの間亡くなっている。被爆者への支援が本当に大切になっている。裁判勝訴に向けて行進頑張りましょう」と挨拶しました。初めての出発式には、豊山町総務部長と議会事務局が参加し激励の挨拶をしました。

参加は女性中心で、太鼓を趣味にしている人が小さなシンバルのチャップと鐘をリズムカルに打ち鳴らしながら楽しい行進で時には踊りながら歩く人も出てきました。野崎議員が道案内をしつつ沿道募金を集めて回る役割も果たしていました。

勝川駅前での集結集会

こどもさんも参加した春日井舞太鼓でオープニング。愛労連の吉良事務局次長は、イラク訴訟、原爆訴訟など、運動の変わり目、そのもとには国民の意識の変化があると評し、一方では陸自の行軍訓練、小牧への空中輸送機の配備など世論に逆らう重大な問題もある。取り組みを強化し、愛知を平和の発信拠点にするために世界大会に向けてさらに奮闘しようとしてよびかけた。

春日井市民会館でのまとめ集会

市民会館でまとめの集会を開催。浦田ピースフェスタ実行委員長は、5コースできたことを参加された皆さんと改めて確認しあいながら、控訴断念という報道があった原爆症認定訴訟についてコメント。305人原告全員の救済を果たしたい、勝ったよという喜びを味わえるようにしたいと挨拶されました。また、当局からは松田総務課長、議会からは事務局のアケヤさんがご挨拶。愛友会事務局長の遠藤さんもかけつけ、裁判をやらないといけないなんとそもそもおかしい。4人の原告も現状では厳しい。原告は当然勝利させたい。しかし、多くの被爆者が苦しんでいるため救済されるようにしたいと挨拶されました。締めは春日井市職労からありました。

